



広島大学歯学部

歯科衛生士教育研修センター主催

2023年度 第2回 公開シンポジウム 特別講演

会場開催
オンデマンド
配信

「がん患者に対する口腔ケア・オーラル マネジメント～術後肺炎・顎骨壊死の予防～」

会場開催：2024年3月17日(日) 13:05～14:05

オンデマンド配信（録画視聴）：2024年3月22日(金)～2024年3月29日(金)



兵庫医科大学医学部
歯科口腔外科学講座
主任教授 岸本 祐充 先生

ご略歴

- 1989年3月 大阪大学歯学部卒業
- 1989年6月 兵庫医科大学病院臨床研修医（歯科口腔外科）
- 1996年9月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
- 2002年1月～2004年1月 米国インディアナ大学医学部外科ポスドク
- 2005年4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師
- 2009年4月 同 准教授
- 2013年4月 同 主任教授、現在にいたる

抄録

術後肺炎と顎骨壊死、全く異なる疾患であるが、いずれも口腔の状態が良くないことを契機に発症し得る、という面で共通点がある。特に、がん患者では、感染防御能が低下していることがあり、がんの部位や治療方法、使用する薬剤の種類の影響を受けることもある。

歯みがきや洗口などの「口腔ケア」だけで、術後肺炎や顎骨壊死を予防できることもあるが、抜歯も含めた何らかの歯科治療をしないと予防効果が出ないことがあることも知っておきたい。がんと診断され、悲嘆にくれ消極的になる患者もいる一方で、1日も早く治療を開始して欲しいと患者本人や家族が積極的に望む場合もある。この時に、手術や放射線、薬物など治療を開始する前から歯科が介入する「周術期等口腔機能管理料（周管）」が保険に収載され、10年以上が経過した。治療開始までの限定された期間にどこまでの歯科治療を提供するか、の「あんばい」についてはまだ結論が出ていないが、少しでも早く歯科受診してもらえれば、できる内容が増えるのは間違いない。周管による合併症発症の予防効果を高めるためには、がん治療に関わるすべての職種が、患者や家族へ周管の有効性をわかりやすく伝えていただけたら、と願っている。